

信州 小布施

新舞台 画狂人北斎

- 葛飾北斎 VS 鳥居耀蔵 -

演出 / 宮本亜門

西岡徳馬 雛形あきこ 寺西拓人 廣瀬 智紀 アイル・シオザキ 瀬尾タクヤ 花音 水谷あつし

小布施
公演

2025年
(令和7)

10月25日(土)/26日(日)

小布施町
北斎ホール

17:00開演(16:30開場) 14:00開演(13:30開場)

チケット S席=8,000円 A席=5,000円 B席=4,000円

全席指定 未就学児入場不可

チケット取扱い = <https://no-4.biz/hokusai2025>



小布施町民限定特別チケットを先行発売します。

詳しくは、小布施町ホームページをご覧ください。

<https://www.town.obuse.nagano.jp>

※本公演のチケットは有償譲渡が禁止されています。

この公演は購入者の氏名及び連絡先を確認したうえで販売されます。

主催 / 小布施町、小布施町教育委員会

後援 / 一般財団法人 北斎館、岩松院



私が最も敬愛する日本人 葛飾北斎

演出：宮本亜門

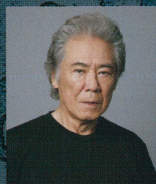
なぜ私がそこまで北斎に魅せられたのか？ それは3万点を超える作品を世に残し、世界中を魅了したことだけが理由ではありません。彼は「一度きりの人生」を誰よりも激しく、誠実に、そして命懸けで生き抜いたからです。

その生涯は波瀾に満ち、不思議なまでに自由でした。93回の引っ越し、30もの改名——常に自らを更新し続け、作風も技法も一切の執着なく変化させていきました。とりわけ晩年の姿は壮絶です。72歳で『富嶽三十六景』を描き始めたかと思えば、突如版画を断ち、肉筆画に魂を注ぎ込み、自らを限界まで追い込んでいきました。その挑戦は、絵を描くことを超えて、まるで宇宙の真理に触れようとする旅路のようでした。彼は晩年、こんな言葉を遺しています。

「73歳にしてようやく、動植物の骨格や誕生の理を知る。80で進化し、90で絵の真髄をつかみ、100で神域に至り、百何十歳であらゆる線が生きるようになる。」

そして今、私たちはこの「人間・北斎」に新たな光を当てようとしています。主演には、圧倒的なエネルギーを放つ西岡徳馬氏。脚本の池谷雅夫さんと私は、北斎をただの天才として描くのではなく、不器用で、正直で、愚直なまでに純粋な一人の人間として浮かび上がらせました。また、北斎と対峙するのは、天保の改革を推し進め「妖怪」とまで呼ばれた鳥居耀蔵には、ノリに乗ってる実力派・寺西拓人さんが、北斎と対照的な存在として演じてもらいます。また雛形あきこさんをはじめ、魅力的な俳優陣と共に、新たな物語が動き出します。

時代を生きること、表現すること、その果てに何があるのか——。新作舞台『新画狂人 北斎』、その息吹をぜひ劇場で体感してください。お待ちしております。



西岡 徳馬——葛飾北斎

「足りねえ足りねえ、七十になっても、まだ足りねえ、八十になって漸く、モノの中身が少しだけ見える様になったが、未だ足りねえ、願わくは九十になったら…」この葛飾北斎の言葉通り、未だ足りねえもっと出来るぞと感じている我が俳優人生とダブらせつつ、手ぐすね引いて稽古を待ってます。

再演とは言え、前回とはまた違った新解釈を含め、新しく共演者に好漢寺西拓人君を始め魅力溢れる俳優陣を迎え、この新作『新画狂人北斎』-2025-を高揚感たっぷりの気持ちで挑みます！



雛形 あきこ——お栄

またお栄として北斎と共に生きることが出来るのを幸せに思います。北斎を愛し尊敬したお栄は、どんな人生を過ごしていたのか。またより深く掘り下げ、皆さまにお伝え出来ればと思います。絵を描く、この事だけに一生をかけた親子の生涯はまだまだミステリアスで魅力に溢れています。その人生をどれだけ表現する事が出来るのか、今から楽しみです。

是非、『新画狂人北斎』-2025-に足を運んでいただけたら嬉しいです。



寺西 拓人——鳥居耀蔵

日本人なら誰もが知っている葛飾北斎。そんな葛飾北斎を、日本人なら誰もが知っている西岡徳馬さんが演じ、日本人なら誰もが知っている宮本亜門さんが演出をするなんて、参加せずにはいられません。今回、この作品に初めて参加させていただきますが、鳥居耀蔵という実在する人物の葛藤を、そして、自分の人生を全うしていく様子を丁寧に表現できたら、と思います。とにかく楽しみです。劇場でお待ちしております。



廣瀬 智紀——時太郎

この度、『新画狂人北斎』-2025-に出演させていただきます廣瀬智紀です。このようなご縁をいただいたことを大変嬉しく、光栄に思います。演出の宮本亜門さん、主演の西岡徳馬さんをはじめ、このカンパニーの皆さんと濃厚な演劇時間を過ごせること、今からとても楽しみです。私自身もひとりの「狂人」となれるよう、芝居に愚直に、まだ見ぬ自分との出逢いを楽しみに稽古に動んでまいりたいと思います。楽しみに待っていただけたら幸いです。よろしくお願いします！



アイル・シオザキ——シーボルト

時代を超えて愛される作品からは声が聞こえる「見ろ！」「聴け！」「届け！」と。筆に声に音に、舞に所作に剣筋に、時に叫び出したい切なさを、時に言い表せない歓喜を乗せ形に残す。そして今この時代に葛飾北斎たちの歩んだ時代の感情を表現するということに、僕は浪漫を感じずにはいられません。この作品から僕たちの声が聞こえ、何かが心に残る

作品になるように心を燃やし、命懸けで海を渡るシーボルトのような強い気持ちで挑みます。



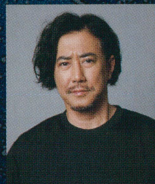
瀬尾 タクヤ——西村屋与八・高井鴻山

「画狂人」——一見すると聞き流してしまいそうな言葉ですが、改めて読むとすごい言葉だと思います。画に「狂人」。私も俳優を始めた頃、芝居に狂いたいと思っていた時期がありました。でも41になった今、その意味すら、少し曖昧です。今回は、西村屋与八と高井鴻山という、北斎に対して立場も関わり方もまったく異なる二役を演じます。商人として北斎の作品を売ろうとする与八と、精神的な理解者である鴻山。正反対の存在を通して、「画狂人」・北斎という人物の複雑さに少しでも迫り、その生き様の一端を皆さまに届けられたらと思っています。



花音——りん

りん役を演じることになりました、花音です。元々浮世絵に興味があり、大学でも浮世絵を専攻していました。今回、葛飾北斎の人生を表現した作品に関わることができて光栄です。素敵なキャストの皆様とご一緒できることが楽しみで、稽古が待ち遠しいです。皆様の熱量に負けぬよう、頑張ります。全国を回る公演ということで、各地の皆さんにこの作品を届けることができ嬉しです。どうぞよろしくお願いいたします。



水谷 あつし——柳亭種彦

噂には聞いていたんですよ！ 宮本亜門さん演出版『画狂人北斎』が新しく生まれ変わると。西岡徳馬さん演じる葛飾北斎VS鳥居耀蔵！！完全なる時代劇版になると！！初演から柳亭種彦を演じさせていただいていた私に出演のオファーが届いた時、新作を人事の様に感じていた私は固まりペリつきました。わわわわわー！えらいこっちゃ。

きっとゼロからのスタートだと思います。脂ののりまくっている大先輩西岡徳馬さん演じる北斎先生の胸を借り、がむしゃらに演じようと心に決めたのでした。そんな私も気づけば還暦。脂よのれー！！